



松山市教育委員会



ストーリーで
知ろう!

松山市の 歴史文化



松山市文化財保存活用地域計画



松山市教育委員会

目次 Index

文化財
とは

松山の文化財	1
文化財保存活用地域計画	2
このパンフレットの使い方	3

発祥の地に生きる 四国遍路	4
------------------	---

神話の時代から人々を 魅了する道後温泉	16
------------------------	----

松山城と近世松山藩の 伝統文化	10
--------------------	----

瀬戸内海の往来が 生んだくらしと文化	22
-----------------------	----

松山らしさ の結晶

それが 文化財

太古の昔、人々が松山に住み始めてから、くらしの積み重ねの中で、松山らしさが生まれてきました。その結晶が松山の「文化財」です。

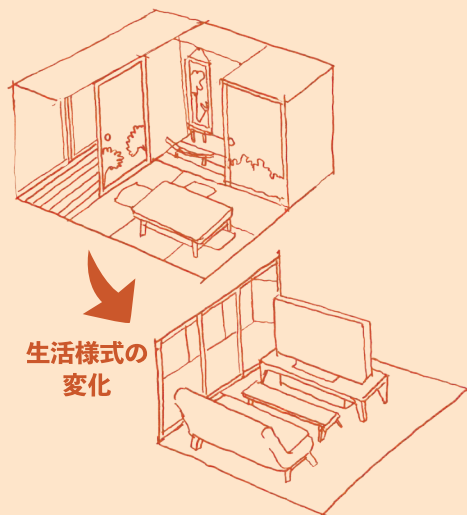
この文化財には、古い建物や絵画、くらしの道具のほか、皆さんの住む地域や家庭で語り継がれてきた昔話や伝承、「ふるさと松山学」の授業で学ぶ松山ゆかりの人物の話も含まれます。

これらの文化財は、国や愛媛県、松山市から指定や登録を受けて守られているものや、地域や個人により守られているものがあります。どれも全て、松山らしさを表す大切なもので、未来に受け継いでいきたいものです。

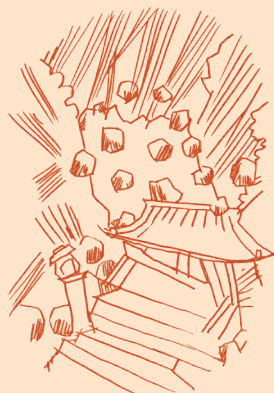


文化財が失われつつある

くらしの中で受け継がれてきた文化財は、生活様式の変化、自然災害、人口減少・少子高齢化による文化財を支える人の不足などが原因で、失われつつあります。



自然災害



文化財を地域みんなで守り、未来に伝えるための計画。それが文化財保存活用地域計画

松山らしい魅力にあふれた文化財を失わないように未来に受け継ぐには、地域みんなで文化財を守りながら様々な分野で活かしていくことを繰り返していく必要があります。

そのために、松山市では令和6年度に「松山市文化財保存活用地域計画」を作成しました。



歴史文化を知ることが文化財を守る第一歩

どんなに大切な文化財でも、それを知る人や大切に思う人がいなくなり、価値が分からなくなると、いつの間にか忘れ去られたり、雑に扱われて失われたりしてしまいます。

そうならないよう、まずは、将来、松山の文化財の守り手となる皆さんに、松山の歴史文化と文化財を知ってもらい、未来へと松山の文化財を受け継いでいてもらいたいと考えています。

このパンフレットの使い方

このパンフレットは、松山らしさを表す10の歴史文化のストーリーのうち、4つを取り上げています。それぞれのストーリーは3項目で構成しています。

①ストーリーの概要



各ストーリーの概要を説明しています。もっと詳しく知りたい方は、右のQRコードから計画書本編を確認してみてください。



②関連する文化財や施設



各ストーリーに関連する文化財や施設を紹介しています。もっと詳しく知りたい方は、右のQRコードから松山市の文化財のホームページを確認してみましょう。



③ストーリーを更に知るきっかけとなるコラム



各ストーリーを更に詳しく調べたい方向けに、ヒントとなる情報や視点をコラムとしてまとめています。『広がれ！ふるさと松山の心』の関連ページも掲載しているので、参考してみてください。





発祥の地に生きる 四国遍路

松山市は、四国遍路の元祖と言われる衛門三郎伝説が残り、四国遍路発祥の地とされています。お遍路さんが名前を書いた札を納める寺院を札所といいます。松山市は、札所がある市町村の中では、最も多い8か所の札所があります。これらの札所には、仏像やお堂など貴重な文化財が数多く残っています。また、寛政12(1800)年に描かれた『四国遍礼名所図会』で賞賛されている45番札所岩屋寺から三坂峠を越えた辺りの松山平野の眺めや、三坂峠から坂本地区までの遍路道は、今でも江戸時代の面影を色濃く残しています。さらに、お遍路さんへの「お接待」のような生活文化は今も大切に受け継がれ、松山人の気質に深く根付いています。



遍路宿坂本屋と遍路道



文化財が集まる 四国遍路発祥の地

久谷地区は、遍路発祥にまつわる衛門三郎伝説に關係する地域で、衛門三郎の屋敷跡である文殊院、亡くなった8人の子どもの墓といわれる「八ツ塚群集古墳」、衛門三郎が巡礼を始める際に札を納めた「札始大師堂」が残っています。



八ツ塚群集古墳(市指定史跡)

お遍路さんをもてなす おせったい

お遍路さんにものをあげたり、親切な行いをすること、お遍路さんを応援したり、弘法大師のご利益を得ようとしたりすることを「お接待」と言います。

四国各地にお接待の文化が残っており、松山市では、坂本地区の坂本屋などで、定期的にお接待を行う接待所が設けられています。



坂本屋でのお接待

広がる巡礼のかたち 風早八十八ヶ所と島四国

四国遍路の巡礼には費用や日数がかかるため、地元に札所の写しを作って巡礼することで同じご利益を得ようとする「写し霊場」が各地に設けられました。興居島と睦月島には島四国八十八ヶ所が整備され、北条地域には、明治時代に地域の薬師堂や地藏堂を結んだ風早八十八ヶ所が作られ、今も巡礼が行われています。

近年では、スマートフォンアプリ「風早ふるさとめぐり88」が公開され、地図や道案内、札所の概要などの情報が提供されており、遍路文化の新たなかたちが示されています。



風早八十八ヶ所47番
西ノ下大師堂





発祥の地に生きる 四国遍路 MAP

凡例

- 陸
- 海
- 河川
- 緑地
- 道路
- 鉄道
- 駅
- 街道
- 遍路道
- 文化財

太山寺

四国八十八箇所霊場52番札所。国宝「太山寺本堂」は密教本堂として全国最大規模を誇る。重要文化財「木造十一面観音立像」や県指定文化財「絹本着色弘法大師像」など多数の文化財を所蔵する。

円明寺

四国八十八箇所霊場53番札所。県指定文化財「円明寺八脚門」や「兩脇侍立像」を所蔵。市指定文化財「円明寺銅板納札」には、現存最古の慶安3(1650)年の銘がある。

石手寺

四国八十八箇所霊場51番札所。国宝「石手寺二王門」や重要文化財「石手寺三重塔」など多くの有形文化財が残されている。衛門三郎が弘法大師の許しを得て生まれ変わった河野息方が左手に握っていた石を所蔵する。

繁多寺

四国八十八箇所霊場50番札所で国指定史跡。一遍上人が青年期に参籠修行し、晩年には父如仏が所持した浄土三部経を奉納したと伝わる。

浄土寺

四国八十八箇所霊場49番札所で国指定史跡。重要文化財「浄土寺本堂」と「木造空也上人立像」を所蔵。本堂内の厨子には、室町時代に巡礼者が書いた墨書が残る。

西林寺

四国八十八箇所霊場48番札所。弘法大師が逗留した際、干ばつに苦しむ村人を救うため錫杖を突いて清水を湧き立たせたと伝わり、近隣の杖ノ淵がこの泉である。

八坂寺

四国八十八箇所霊場47番札所で国指定史跡。県指定文化財「木造阿弥陀如来坐像」を所蔵。市指定文化財「層塔」と「宝篋印塔」は鎌倉時代の貴重な作例。

ハツ塚群集古墳

古墳時代後期の8基からなる群集墳。直径約7mから14mの円墳と、一辺約10mの方墳が半数ずつある。衛門三郎の8人の子供を祀った伝説が残っており、塚の頂に小さな祠が置かれ、石地蔵が祀られている。

浄瑠璃寺

四国八十八箇所霊場46番札所で国指定史跡。江戸後期に土佐街道の整備と架橋に尽くした住職堯音が著名。樹齢1000年を超すといわれる市指定文化財「イブキビャクシン」が所在。



＼もっと知ろう！／ 発祥の地に生きる 四国遍路

お遍路さんが見た景色を 確かめに行こう

寛政12(1800)年に出版されたお遍路のガイドブック『四国遍礼名所図会』では、久万高原町の45番札所岩屋寺から46番札所浄瑠璃寺へ至る三坂峠が名所として紹介されています。峠の頂上に立ったときに目の前に広がる松山平野と瀬戸内海の島々は、「絶景いわんかたなし」(たとえようもない素晴らしい景色)と表現されています。

長く険しい山道を歩き続け、ようやくたどり着いた三坂峠からの景色は、お遍路さんの目にどのように映ったのでしょうか。また、今の景色と同じところや違うところはあるのでしょうか。お遍路さんの気持ちを思い浮かべながら、200年前からの変化を確かめてみましょう。



四国遍礼名所図会



三坂峠

今と昔の変化を 知るためのヒント

①古地図

昔の地形や集落の位置、
道が分かる地図

②古写真

昔の景色やお遍路さんの
様子が分かる写真

③文献資料

遍路文化に関する様々な
本・ガイドブック



身近な図書館で
探してみよう！



お遍路さんが通る道を見つけよう！ 道標と常夜灯



皆さんが歩いたり、車で通ったりしている道は、見かけは整えられて、新しい道に見えます。しかし、その道は、古くからお遍路さんが通っている「遍路道」かもしれません。

遍路道を探す手がかりとなるのは、沿道に残る道標や常夜灯です。道標は札所への行き方を示し、常夜灯は安全に通行して欲しいという祈りが込められています。これらは、家を建て替えたり、道路を広げたりするタイミングで、壊されたり、なくなったり、道路に埋まったりしてしまったものもありますが、令和6年3月時点では、100を超える道標が確認されており、中には340年ほど前のものもあります。

遍路道には、時代を超えて今も多くの人々が行き交っています。道標や常夜灯を手がかりに、皆さんの家の近くの遍路道を探してみませんか。



常夜灯



道標



調査が進む 四国遍路

愛媛県や愛媛大学四国遍路・世界の巡礼研究センター、四国遍路世界遺産登録推進協議会が主体となり、札所や遍路道に関する調査が進められています。最新の調査結果も参考にしてみましょう。

広がれ！ふるさと松山の心 [関連ページ](#)

P.173 『恵原の里の物語 お接待の心』

松山城と 近世松山藩 の伝統文化



松山藩は、慶長5(1600)年、加藤嘉明^{かとうよしあき}が松山平野を治めるようになったことに始まります。嘉明はそれまで居城としていた正木城^{まさきじょう}(現在の伊予郡松前町に存在)では手狭だとして、松山平野中央に位置する味酒山に松山城を築き、城下町を作り上げました。このとき城の整備や治水工事を指揮した足立重信^{あだちしげのぶ}の名は、現在も重信川として残っています。その後、松平家が治めるようになった松山藩では、文教政策が推進されました。文政11(1828)年に藩校明教館^{めいきょうかん}が設立されたほか、町民にも文学・芸能が奨励され、能楽や俳諧などの今に伝わる民俗文化財や無形文化財が形成されました。

現在、松山城は史跡や重要文化財に指定され、火災などで失われた建物も復元されています。また、城下町の面影は、現在も古町や御幸の寺町に残っています。



松山城本壇

様々な分野の 学者を松山に

4代目藩主の松平定直^{さだなお}は、蘭学者(西洋の学問や文化を研究する人)や儒学者(孔子の教えを研究する人)を松山に呼び、文化や学問の発展に力を注ぎました。明治以降も、文化や教育を重視する気風は生き続け、明治3(1870)年には、内藤鳴雪^{ないとうめいせつ}によって、明教館に英語教師を招くなどの教育改革が行われました。



内藤鳴雪



松山藩で花開いた 芸能や祭り

松山藩では、能楽や俳諧が大いに流行し、今も松山に伝わる芸能・文芸の骨格ができてきました。東雲神社には、松山藩主松平家の能道具である県指定有形文化財「能面・能衣裳・狂言面・葛帯^{かつらおび}など」が納められ、現在も能が奉納されています。

また、勝岡八幡神社の祭礼行事「一体走り」は、宝暦4(1754)年に行われた記録が残っています。



東雲神社の能面

松山城と 近世松山藩 の伝統文化MAP



- 凡例
- 陸
 - 海
 - 河川
 - 緑地
 - 道路
 - 鉄道
 - 駅
 - 商店街
 - 文化財
 - 施設

松山城跡

本丸と二之丸の所在する城山と南西山麓に広がり堀と土塁に囲まれた三之丸の全域が国史跡に指定され、史跡公園となっている。

松山城

天守をはじめとする櫓や門など21棟が重要文化財に指定されている。現在の天守は、嘉永5(1852)年に再建されたもので、建築時から現存する天守の中で最後に建設された例として注目される。また、小天守をはじめとする焼失した建造物は、昭和40年代から順次復元され、一部は国有有形文化財に登録されている。

愛媛県美術館

郷土作家や海外作家の作品などを収蔵展示。重要文化財「忽那家文書」や「太刀 銘 助包」などの文化財も収蔵する。

萬翠荘

重要文化財。大正11(1922)年に久松定謨伯爵の別邸として建設された純フランス風の建造物。愛媛県庁本館の設計も担当した木子七郎の作。

坂の上の雲ミュージアム

小説『坂の上の雲』に描かれた主人公3人の足跡や明治時代に関する資料を展示。重要文化財「釣島灯台 附 断簡類」と同「地図」を所蔵。



／もっと知ろう！／ 松山城と 近世松山藩 の伝統文化

現代に続く松山城下の 面影を探してみよう

現代の松山城下

慶長5(1600)年、加藤嘉明は水害を繰り返す湯山川(石手川)を南に付け替えて、安全な広い平地を確保し、中央に位置する味酒山に松山城を築きました。山のふもとと三之丸(堀之内)や南側には家臣の屋敷を配置し、西側には商人や職人を住まわせ、北側の御幸寺山のふもとには寺院を集めて城下町を形作りました。

城下町の面影は、今も町割りや地名に残されています。例えば、「歩行町」は「徒士」という役職の家臣が住んでいた地区で、「萱町」は「茅」を取り扱う職人が住んでいた地区です。それぞれの町にどのような由来があるのか、絵図や地図を頼りに調べてみましょう。

城下町で花開いた町方文化を体感しよう

現在の俳句のもととなる俳諧は、4代藩主の松平定直がたしななだことから、松山藩で大流行しました。

松山の松前町で酒造業を営む家に生まれた栗田樗堂は、町方大年寄などの松山藩の役を務めながら、俳諧をたしなみ、全国にその名を知られるようになりました。その後、俳諧に専念するため、現在の味酒二丁目に「庚申庵」を建て、俳諧と煎茶を楽しみました。この庚申庵は、県の史跡に指定され、当時の姿に復元された庵と庭園が公開されています。

樗堂の気持ちを想像しながら、庚申庵で自然を見つめ、みんなで句を作ってみませんか。

庚申庵(県指定史跡)



学校のルーツ 明教館

文政11(1828)年、文武両道を振興し、藩の空気を引き締めることを目的に、松山藩の藩校として「明教館」が建てられました。ここでは、中国の思想や学問である漢学、数や図形、量に関する算学のほか、弓術・剣術などが教えられ、現在の私たちの学校で言えば、漢文や数学、体育などの授業がありました。

明教館の卒業生には、小説『坂の上の雲』の主人公の秋山兄弟がいます。また、明教館がルーツである松山中学では、小説『坊っちゃん』の作者の夏目漱石が英語を教えていました。

明教館の建物は、現在は松山東高等学校内に移築されており、当時の学び舎の風景を体感することができます。



明教館(県指定有形文化財)



秋山兄弟



夏目漱石



広がれ!ふるさと松山の心

関連ページ

P.18 小林一茶と交流した庚申庵の主『栗田樗堂』

P.20 松山中学校の英語教師『夏目漱石』

P.68 学問好きの努力家『内藤鳴雪』

P.104 松山城を造ったお殿様『加藤嘉明』

P.106 城下町松山の礎を築いた開拓者『足立重信』

神話の時代から人々を魅了する

道後温泉

道後温泉は『古事記』、『日本書紀』、『伊予国風土記』にその名が残る日本最古の温泉の一つです。古代から聖徳太子や中大兄皇子など、多くの皇族や歴史上の人物が訪れました。中世に伊予の大半を治めた河野氏がその本拠地として湯築城を築くと、湯築城・道後温泉・石手寺は、政治・経済・文化の中心地として発展しました。また、江戸時代には松平藩政下で温泉場の改修や建て替えが行われ、明治時代には道後湯之町の町長、伊佐庭如矢のもと、現在も残る「道後温泉本館」の整備が行われました。

このように、その時々々の権力者の庇護を受け、人々に愛され発展を遂げた道後温泉は、現在も多くの人々を魅了し続けています。

霊の湯(女湯)



夜の道後温泉



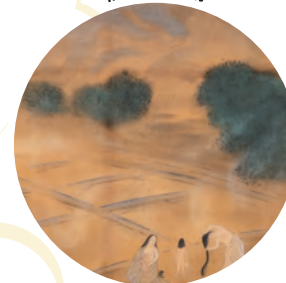
古代の様々な人が訪れた証

現存する日本最古の歌集『万葉集』には、^{さいめい}齊明天皇に従って伊予を訪れた^{ぬかたのおおきみ}額田王が詠んだ「^{きたつ}熟田津に 船乗りせむと 月待てば 潮もかなひぬ 今は漕ぎ出でな」の歌が掲載されています。



熟田津の歌碑

伊予の湯桁



伊予の湯(道後温泉)には、無数の湯桁(湯がたまっているところの周囲に渡し足場板のことが張り巡らされていました。平安時代に書かれた『源氏物語』では、数が多い様子を表す慣用句として「伊予の湯桁」が使われているほど、伊予の湯は有名でした。



熟田津



より多くの人々を受け入れるための整備



明治22(1889)年に、道後湯之町が発足し道後温泉の管理を始めたときには、温泉場は老朽化していた上に、とても狭く不便でした。そこで、初代町長の伊佐庭如矢は、温泉場全ての建て替えを計画し、現在まで続く「道後温泉本館」の基礎を作り上げました。

神話の時代から人々を魅了する

道後温泉 MAP



松平定行の霊廟
松平定政の霊廟
浅山勿斎の墓
松山神社社殿

道後温泉本館

明治27(1894)年に神の湯本館、明治32(1899)年に又新殿・霊の湯棟が竣工。その後も改築を繰り返し、昭和28(1953)年に現在の姿に整った。
平成6(1994)年、公衆浴場で初めて重要文化財に指定された。

水口酒造店舗兼主屋

一遍上人の誕生地(寶厳寺)

伊佐爾波神社

重要文化財。江戸時代初期の建設だが、丹塗り・胡粉彩色など桃山時代の作風が見られる。また、22面もの算額が奉納されており、愛媛の和算発達史を知るうえにも貴重な資料として県指定文化財となっている。

子規記念博物館

正岡子規の世界を通して松山や文学について親しみ、理解を深められる博物館。
市指定文化財「道後温泉絵図」などの資料を所蔵している。

湯築城跡(道後公園)

国指定史跡。伊予国守護に任じられた河野氏の居城で、約250年間伊予国の中枢として機能した。
現在も堀や土塁などが当時のまま残され、武家屋敷や土塀が復元されている。園内の湯築城資料館では、発掘調査で見つかった出土品などが展示されている。

久保家住宅

湯釜

石手寺

石手寺は湯築城を本拠とした河野氏との関係が強く、石手寺・河野氏・道後温泉は中世を通して発展した。この関係を示す市指定文化財「石手寺制札」など、様々な文化財がある。

凡例

- 陸
- 海
- 河川
- 緑地
- 道路
- 鉄道
- 駅
- 文化財
- 施設

／もっと知ろう！／

神話の時代から人々を魅了する

道後温泉

生きる文化財

道後温泉に入ってみよう

「道後温泉本館」は、重要文化財に指定されています。文化財として指定された建造物には、本来の役割を終えて、博物館などとして公開されるものも多くありますが、道後温泉本館は、今も公衆浴場として役割を担い続ける、まさに生きる文化財です。

その姿を支えているのは、毎日のメンテナンスと、訪れる人たちの思いやりや理解です。道後温泉本館は、老朽化した施設の修理や災害への備えを行うため、平成31(2019)年から令和6(2024)年まで保存修理工事を行いました。この工事にかかる費用の一部は、道後温泉を大切に思う全国の人々から寄付を受けています。

聖徳太子の時代から多くの人々を魅了し、今を生きる人々からも愛され、未来の人々に受け継いでいく道後温泉。未来に訪れるのはどんな人たちでしょうか。人と人のつながりを考えながら、道後温泉に入ってみましょう。

神の湯(男湯)



中世伊予の 中心都市 道後



現在の「道後公園」は、700年ほど前に築かれた「湯築城」という城で、伊予の大半を治めた河野氏の本拠地でした。河野氏は道後温泉も支配しており、「石手寺制札」(ルールを知らせるために立てられた看板)によると、河野氏は、石手寺の僧侶が道後温泉に入浴する日を毎月6回の決まった日と定めていました。また、湯築城の正門にあたる東門と石手寺の間には市場が設置され、商工業が繁栄しました。河野氏は、石手寺に温泉の経営を行わせていたことも分かっており、道後温泉と河野氏、石手寺によって道後の町は、中世伊予の中心都市へと発展しました。

道後公園には、湯築城の姿を伝える堀や土塁などが当時のまま残されており、武家屋敷や土堀が復元され、発掘調査で出土した土器などが展示されています。政治や文化の中心地としてにぎわった道後の面影を探しに行ってみましょう。



湯築城跡 (国指定史跡)

ふるさと納税を 通して、全国から 応援されています

文化財の修理工事には多額の費用がかかります。松山市では、ふるさと納税制度を通して、寄付金を募り、日本中から支援を受けながら道後温泉本館を未来に受け継いでいくための工事を行いました。寄付総額は5092万円にのぼりました。

広がれ! ふるさと松山の心 [関連ページ](#)

- P.116 新しい踊り念仏を広め時宗を開く『一遍上人』
- P.126 道後温泉のために貫いた信念はここから『伊佐庭如矢』
- P.172 『平和を願って 道後温泉～日本最古の湯釜・湯釜薬師～』

瀬戸内海の往来が生んだ暮らしと文化

波が穏やかで島々の点在する瀬戸内海は、古くから重要な交通路でした。中世には河野氏や忽那氏が海上勢力として活躍し、その影響のもと「鹿島の櫓練り」や「興居島の船踊り」などの海辺の文化財の源流が育まれました。また、河野氏の拠点であった「湯築城跡」などの遺跡からは、日本全国だけでなく、外国製の陶磁器が出土しており、中世の伊予で非常に広範囲の物流があったことを示しています。

近世には、加藤嘉明により三津浜港が整備され、松山の外港として発展しました。三津浜は、明治以降も漁港や港湾都市として繁栄し、「木村家住宅」などの歴史的建造物が今も残されており、瀬戸内海の往来が生んだ繁栄や人々の生活を現在に伝えています。



興居島から忽那諸島を望む



海と共にくらすことで生まれた文化

中世に瀬戸内海の海上交通路を支配下に置き、力をつけた河野氏と忽那氏の影響によって、松山では船や海に関わる多くの文化が生まれました。

代表的なものとしては、「鹿島の櫓練り」や「興居島の船踊り」といった船上での踊りや祭り、三津の渡し（渡し船）が今日まで伝わっています。



鹿島の櫓練り（県指定無形民俗文化財）

三津の渡し



海路を活かした産業の発展

睦月島や野忽那島では、幕末頃から反物などを船に積み込み、瀬戸内海を往来する船舶に売り込む沖売りが営まれました。明治に入ると、海路を活かして伊予絣をはじめとする反物などを売る行商が盛んになり、昭和の初めには、北は北海道から南は奄美大島にまで行商する一大産業となりました。

第二次世界大戦中には廃れてしまいましたが、全国で「睦月の縞売り」と呼ばれた船による反物行商は一つの時代と文化を築き上げたのです。



伊予絣



瀬戸内海の往来が生んだ暮らしと文化MAP



凡例	
	陸
	海
	河川
	緑地
	道路
	鉄道
	駅
	文化財

旧鈴木家住宅(主屋・離れ)

登録文化財。主屋の正面外観は明治末から大正にかけての自由な空気を現しており、先進的な港町三津の歴史を伝える。

石崎汽船本社

登録文化財。萬翠荘などを手掛けた木子七郎の設計により、関東大震災の翌年、耐震防火を考慮し、当時としては画期的な鉄筋コンクリート造で建てられた。

森家住宅

登録文化財。商談・接待が営まれた三津の商家の特徴を持つ。また梁には俳句が墨書され、俳句文化も伝える。

木村家住宅(主屋・土蔵・離れ・風呂)

登録文化財。明治期の主屋等と昭和初期の離れからなる。明治期らしい主屋の正面外観が三津の歴史的景観に寄与している。

湊山(港山)城跡

港山

三津の渡し(湊山側)

三津の渡し(三津側)

高橋家

愛媛塩元売捌(株)(宮崎家)倉庫

林家

現田川家
(元白方家)

藤内家

西野家

寺尾商店

三津港波止場

山谷運送店社屋(株式会社山谷)

山本船具店

岡田家

元石川医院

山谷家

近藤分家

河野家

中村商店

梶原家
(旧近藤家
隠居屋)

近藤本家

遠藤醸造

濱田医院

大上家

宮前川

三津

詳細図範囲

虎舞

白楊会館

伊予源之丞・伊予源之丞 人形頭衣装道具一式

古く淡路から三津浜地区に伝わった人形芝居。伊予源之丞とその道具一式が県指定民俗文化財となっている。

／もっと知ろう！／ 瀬戸内海の往来が 生んだくらしと文化



あか 行き交う人たちを見守った灯りを見つけよう

穏やかで航行がしやすい瀬戸内海は、多くの船が往来しました。また、海に浮かぶ島々は、航行中の船が汐待ち、風待ちをするための停泊地となり、停泊中の船を相手に商業が営まれ、にぎわいました。これらの島々には、海や島内を行き交った人々を見守っていた灯りがあります。

常燈の鼻(市指定史跡)



つわじしま
津和地島は、瀬戸内海の主要航路に面していたので、江戸時代には瀬戸内海を行き交う幕府や諸大名の船を接待するために松山藩の「お茶屋」が設置されました。お茶屋には多くの船が出入りし、幕府が設置した港に並ぶほどのにぎわいをみせました。湾の東端の岬に、航行の目印となる常夜燈を設置し、一晩中灯りを点したことから、「常燈の鼻」と呼ばれ、現在も跡地が残されています。

つるしま
明治6(1873)年に釣島に建てられた「釣島灯台」は、県内最古の洋式建築であり、今も海上保安庁が管理する現役の灯台として、瀬戸内海を行き来する船を見守っています。暗い夜の海に灯る灯りは、どれほど船乗りたちの心を安心させたでしょう。

船乗りたちを導いた灯台の灯りを守る活動に、皆さんも参加してみませんか。

釣島灯台(重要文化財)



市民の手で
文化財を
維持管理する

毎年7月以降に、松山市の広報やホームページで、釣島灯台の掃除や草刈り、ペンキ塗りなどの維持管理を行うボランティア「釣島サポーター」を募集し、市民の皆さんと一緒に維持管理を進めています。

人や物が集まり栄えた 三津浜 の今を見てみよう

三津浜は、近世に御用船基地(参勤交代の際に大名が入港する場所)となり、松山が外とつながる港として発展しました。この港は、明治以降は漁港として、また、物資の集積する港湾都市として、旧松山城下をしのぐほどにぎわいを見せました。その後、幸いにも第二次世界大戦の戦火を免れた三津浜には、明治から昭和初期にかけての建物が多数残され、当時の街並みを今に伝えています。近年では、その街並みを活かして、古い建物に新しいお店が入り、街中がにぎわい始めています。

今も昔も、人や物が集まる三津浜に残された古い建物には、どんな特徴があるのでしょうか。皆さんが住んでいる家とどんな違いがあるのか調べてみましょう。

石崎汽船本社(国登録文化財)



三津の街並み



木村家住宅(国登録文化財)



森家住宅
(国登録文化財)



広がれ!ふるさと松山の心 関連ページ

- P.102 蒙古軍相手に大活躍『河野通有』
- P.175『四百年の伝統を受けつぐ〜虎舞〜』
- P.183『島に生きる〜船踊り〜』

歴史文化をもっと知りたいひとにおすすめの施設

松山市立子規記念博物館



正岡子規の世界をとおり、松山の歴史や文学に親しみ、理解を深めることができる文学系の博物館です。常設展では子規の書簡や原稿のほか、クイズコーナーなどの体験型展示もあり、楽しみながら子規の一生を学ぶことができます。

- ところ
松山市道後公園1番30号
- 開館時間
5/1～10/31：午前9時～午後6時（入館は午後5時半まで）
11/1～4/30：午前9時～午後5時（入館は午後4時半まで）
- 休館日
火曜日（祝日の場合は開館）



松山市坂の上の雲ミュージアム



小説『坂の上の雲』に描かれた主人公3人の足跡や明治という時代に関する展示に加え、まちづくりに関するさまざまな活動を行い、訪れた人々が時の流れについて感じ、考える場を提供しています。

- ところ
松山市一番町三丁目20番地
- 開館時間
午前9時～午後6時半（入館は午後6時まで）
- 休館日
毎週月曜日（祝日の場合は開館）



松山市立埋蔵文化財センター・松山市考古館



考古館では、旧石器時代から江戸時代までの市内で出土した遺物約600点について、「見る」「聞く」「触れる」そして「考える」ことを基本として展示を行っています。

- ところ
松山市南斎院町乙67番地6
- 開館時間
午前9時～午後5時（入館は午後4時半まで）
- 休館日
月曜日（祝日・振替休日を除く）
祝日・振替休日の翌日（日曜日を除く）
年末年始（12月29日～翌年1月3日）



その他の施設

松山市北条ふるさと館

- ところ
松山市河野別府995番地
- 開館時間
午前9時～午後10時
（歴史民俗資料展示室、美術品等展示室は午後5時まで）
- 休館日
月曜日（休日を除く）
休日の翌日（日曜日を除く）
年末年始（12月29日～翌年1月3日）



松山市立中島歴史民俗資料館 懐古館

- ところ
松山市熊田甲652番地1
正賢寺
- 見学希望時は事前に連絡のこと
089-997-1087



松山市北条鹿島博物館 展示館「かしまーる」

- ところ
松山市北条辻1596番地3
- 開館時間
午前8時半～午後5時半
（入館は午後5時まで）
- 休館日
なし（鹿島渡船が運休の場合は休館）

